

**一般社団法人 公認心理師の会**

**2020 年度 年次総会・研修会**

**プログラム・抄録集**

**◆総会テーマ**

**科学者－実践家モデルに基づく  
公認心理師の新しい時代を拓く**

# 一般社団法人公認心理師の会 2020年 年次総会・研修会 概要

2020年2月18日段階

## ◆日時

2020年5月30日(土) 年次総会  
5月31日(日) 主要5分野専門研修会(厚生労働省・文部科学省後援)

## ◆会場

東京大学駒場キャンパス 21KOMCEE EAST 2階教室  
東京都目黒区駒場3-8-1 京王井の頭線駒場東大前駅下車  
[https://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam02\\_01\\_55\\_j.html](https://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam02_01_55_j.html)

## ◆総会テーマ

科学者－実践家モデルに基づく公認心理師の新しい時代を拓く

## ◆参加費

【年次総会 参加費】 会員4,000円 非会員6,000円 学生3,000円  
【研修会 参加費】 1ワークショップにつき 会員4,000円 非会員6,000円

## ◆事前申込

どなたでも参加いただけます。公認心理師以外の方も歓迎します。  
年次総会・研修会ともに事前予約が必要です。  
公認心理師の会のウェブサイトの「研修会」ページからお申し込みください。  
下記のQRコードで当会の「研修会」ページにアクセスできます。



## ◆参加に関する注意事項

- ・2020年度の会員登録が完了して年会費を支払った方のみ会員会費となります。会員登録が途中の方は、非会員会費となります。
- ・非会員・初参加の方は、「非会員・初参加の方」をご覧ください。新規ユーザ登録をしていただく必要があります。
- ・先着順に受け付けます。研修会で、同じ時間帯のワークショップは同時登録できません。
- ・予約が完了すると、メールが届きます。
- ・年次総会・研修会当日は入金完了の確認メール、またはその他、入金済みである事を証明できるものを必ず持参してください。
- ・研修会に参加された方には、「研修修了書」をお渡しします。
- ・お問い合わせは、当会ウェブサイトの「よくある質問」内の「お問い合わせフォーム」をご利用ください。

## ◆一般社団法人 公認心理師の会 事務局

〒113-0033 東京都文京区本郷5-23-13 田村ビル  
公益社団法人日本心理学会事務局内  
ホームページ <https://cpp-network.com/index.html>

◆年次総会 5月30日 日程表

時間	第1会場	第2会場	第3会場	第4会場（事務局）
10:30-12:00	PG 1 全体企画シンポジウム			
12:00-13:00				理事会
13:00-14:30	PG 2 医療部会 パネルディスカッション	PG 3 司法・犯罪・嗜癖 部会 シンポジウム	PG 4 倫理・職責・関連 法規部会 講演	
14:40-16:10	PG 5 教育・特別支援部会 シンポジウム	PG 6 福祉・障害部会 シンポジウム	PG 7 産業・労働・地域 保健部会 シンポジウム	
16:20-17:20	専門部会（各部会ごとのミーティング）			
17:30-18:30				役員総会 （すべての部会の 合同ミーティング）
18:30-				役員交流会 （懇親会） 会場2号館（予定）

◆主要5分野専門研修会（厚生労働省・文部科学省後援） 5月31日 日程表

時間	第1会場	第2会場
午前 9:00-12:00	WS 1 教育・特別支援 部会 研修会	WS 2 産業・労働・地域 保健部会 研修会
午後 12:30-15:30	WS 3 医療部会 研修会	WS 4 福祉・障害部会 研修会
夕方 16:00-19:00	WS 5 司法・犯罪・嗜癖 部会 研修会	WS 6 倫理・職責・関連 法規部会 研修会

◆年次総会 5月30日 プログラム

●10:30-12:00 PG1 公認心理師の会 全体企画シンポジウム

「現場で活躍できる公認心理師になるにはどうするか」

司会	鈴木 伸一	早稲田大学 (当会副理事長)
話題提供1	島田 隆生	厚生労働省 公認心理師制度推進室
話題提供2	堀越 勝	国立精神・神経医療研究センター 認知行動療法センター
話題提供3	丹野 義彦	東京大学 (当会理事長)

●13:00-14:30 PG2 医療部会 パネルディスカッション

「医療現場で求められる多職種連携・チーム医療ー公認心理師はどう他職種と働くのかー」

企画・司会1	小林 清香	埼玉医科大学総合医療センター メンタルクリニック
企画・司会2	佐藤 さやか	国立精神・神経医療研究センター
パネラー1	朝波 千尋	国立精神・神経医療研究センター病院
パネラー2	富安 哲也	亀田総合病院 臨床心理室
パネラー3	別所 晶子	埼玉医科大学総合医療センター 小児科
パネラー4	西 侑紀	福山リハビリテーション病院

●13:00-14:30 PG3 司法・犯罪・嗜癖部会 シンポジウム

「矯正・保護・地域における心理的支援の連携のあり方：性犯罪者に対する公的支援と民間支援」

企画	有野 雄大	内閣府成果連動型事業推進室
企画	寺田 孝	府中刑務所
司会	嶋田 洋徳	早稲田大学
話題提供1	寺田 孝	府中刑務所
話題提供2	有野 雄大	内閣府成果連動型事業推進室
話題提供3	中川 桂子	大石クリニック

●13:00-14:30 PG4 倫理・職責・関連法規部会 講演

「科学者ー実践家モデルは「絵に描いたモチ」ではないー「食える」心理職となるために」

司会	佐々木 淳	大阪大学
講演者	武藤 崇	同志社大学

●14:40-16:10 PG5 教育・特別支援部会 シンポジウム

「行動コンサルテーションによる教育分野への支援」

企画・司会1 指定討論	大石 幸二	立教大学
企画・司会2	小関 俊祐	桜美林大学
話題提供1	大橋 智	東京未来大学
話題提供2	榎本 拓哉	明星大学
話題提供3	新井 雅	跡見学園女子大学

●14:40-16:10 PG6 福祉・障害部会 シンポジウム

「心理学とノーマライゼーションの関係におけるパラダイム・シフトは可能か：  
分担から連携，そして共創へ」

企画・司会	武藤 崇	同志社大学
話題提供1	熊 仁美	特定非営利活動法人 ADDS
話題提供2	陶 貴行	LITALICO 研究所
話題提供3	河野 禎之	筑波大学
指定討論	境 泉洋	宮崎大学

●14:40-16:10 PG7 産業・労働・地域保健部会 シンポジウム

「職場復帰支援—治療と仕事の両立に必要な支援とは—」

司会	水島 秀聡	小島プレス工業（株）
話題提供1	田上 明日香	SOMPOヘルスサポート（株）
話題提供2	浅野 健一郎	（株）フジクラ
話題提供3	立石 清一郎	産業医科大学病院

## 現場で活躍できる公認心理師になるにはどうするか

### 【目的・ねらい】

公認心理師は高い能力を持っており、こうした能力を十分に発揮して、現場で活躍できる公認心理師になるには、どのようにしたらよいだろうか。心理アセスメントや心理学的介入のスキルを深めることはもちろんのこと、国家資格としての公認心理師には法律・制度にもとづく多職種連携（チーム医療、チーム学校）、多職種間のコーディネート業務、サイエンスにもとづく心の健康教育など、幅広い仕事が期待されている。これから国家資格としての能力を高めていくために、どのようなことが必要か考えたい。

---

司会	鈴木伸一	早稲田大学 公認心理師の会副理事長
話題提供1	島田 隆生	厚生労働省 公認心理師制度推進室
話題提供2	堀越 勝	国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター
話題提供3	丹野 義彦	東京大学 公認心理師の会理事長

---

話題提供1 島田 隆生 厚生労働省 公認心理師制度推進室

### 【発表タイトル】

行政は公認心理師にどのような活躍を期待するか

### 【発表内容】

公認心理師制度については、平成29年9月に法律が施行されてから、これまでに2回の国家試験が行われ、3万人を超える公認心理師が誕生している。この度は、改めてこの制度の現状を振り返るとともに、公認心理師の活躍の場や期待されていること、養成や資質向上において求められていること等、厚生労働省における取り組みについて説明する。

---

話題提供2 堀越 勝 国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター

### 【発表タイトル】

サイエンティスト&プラクティショナーモデルの今（米国における心理師訓練）

### 【発表内容】

1949年、米国では「ボルダーカンファランス」で臨床的・サイコロジストの理想像として Scientist & Practitioner Model が示されたが、それは米国でどの様に実現されているのか。日本の養成課程とは異なり、米国では修士と博士レベルに分かれ、リサーチトラックと臨床的トラックの2系統があり、それぞれに共通な訓練と異なる訓練、そして異なる学位と役割が用意されている。米国での心理師訓練の全体像とトラックごとの共通点、相違点などを紹介する。

---

話題提供3      丹野 義彦      理事長 東京大学

**【発表タイトル】**

現場で活躍できる公認心理師をサポートする体制づくり

**【発表内容】**

公認心理師には幅広い仕事が期待されており、知識と技術をつねに磨きスキルアップをはかる生涯学習の義務がある。公認心理師自身が努力することはもちろんだが、それをサポートする制度づくりも大切である。これについて、教育機関レベル（大学・大学院での養成）、職場レベル（職場での研修、スーパービジョン）、団体・学会レベル（研修会でのワークショップ、専門資格認定、職域拡大など）、国レベル（保険点数化、常勤化など）などに分けて考えてみたい。

## 医療現場で求められる多職種連携・チーム医療

### ー公認心理師はどう他職種と働くのかー

#### 【目的・ねらい】

公認心理師には、多職種と連携した業務遂行、専門性の発揮が強く求められている。医療では、従来からチーム医療、つまり多様な専門職による連携・協働による、より良い医療の実践が推進されてきた。ここでは、医療のさまざまな領域において、先進的に活動を行っている方たちをお招きし、心理師としてどのようにチーム医療に参加し、貢献してきたか、その工夫を伺い、これからのチーム医療への展望を共有する機会としたい。

---

企画・司会1	小林 清香	埼玉医科大学総合医療センターメンタルクリニック
企画・司会2	佐藤 さやか	国立精神・神経医療研究センター
パネラー1	朝波 千尋	国立精神・神経医療研究センター病院
パネラー2	富安 哲也	亀田総合病院 臨床心理室
パネラー3	別所 晶子	埼玉医科大学総合医療センター 小児科
パネラー4	西 侑紀	福山リハビリテーション病院

---

パネラー1 朝波 千尋 国立精神・神経医療研究センター

#### 【発表タイトル】

精神科治療チームにける心理職のコミットメント

#### 【発表内容】

精神科領域における心理職に期待される役割は多岐に渡っている。とりわけ傾聴や共感的態度の基本的カウンセリングスキルは疾患や問題に関係なく必要とされ、心理職が多職種の『つなぎ役』として機能するために最も重要なスキルともいえる。この点を踏まえ、専門領域である心理検査や心理的見立ての共有、多職種チーム内でどのように心理職が有機的に機能できるか、精神科臨床で取り入れている工夫を総括し、今後の展望を提起したい。

パネラー2 富安 哲也 亀田総合病院 臨床心理室

#### 【発表タイトル】

総合病院における多職種連携～チームの枠を超えた多職種協働を考える



**【発表内容】**

現在、医療機関においては多彩なチーム医療が展開されており、当院においてもいくつかの診療科チームに公認心理師がメンバーとして参加している。

本発表では、公認心理を始め、いくつかのチームに属するメンバーが、既存のチームの枠を越えて多職種で関わったケースについて報告を行う。そのケースを振り返る中で今後のチーム医療や多職種協働について考え、公認心理師の動き方や実際上の配慮などについても私見を述べたい。

---

パネラー3          別所 晶子          埼玉医科大学総合医療センター 小児科

**【発表タイトル】**

小児救命救急センターにおける重症患児の家族の対応について  
—臨床心理士の役割を中心に—

**【発表内容】**

子どもが亡くなることは、遺された家族の悲嘆が最も強いと言われているため、多職種による早期からの関わりが必須である。筆者が勤務する小児救命救急センターでは、重症患児が搬送されてくると、1～2日の内に心理士に依頼が入る。開室以来3年10か月間で心理士が介入した事例は72件である。

今回の発表では、当センターにおける多職種による重症患児の看取りのプロセスを紹介する。また、当センターで実際に終末期を過ごし、亡くなった患児の事例を紹介する。早期からの心理士の介入が、重症患児の家族に関わる上で有用ではないかと考えられる。

---

パネラー4          西 侑紀          福山リハビリテーション病院

**【発表タイトル】**

高次脳機能障害の臨床における公認心理師の他職種連携

**【発表内容】**

高次脳機能障害は、外見では分かりにくいという特徴があることから、神経心理学的検査による評価が必要となる。当院では、OTやSTと共に公認心理師が、脳卒中や頭部外傷後の患者に対して神経心理学的検査を実施し、その結果と行動観察を元に報告書を作成している。

そして、主治医や看護師、MSWなどの他職種にはカンファレンスで、ご本人やご家族にはICで高次脳機能障害の症状を共有し、今後の方針を話し合っている。

## 矯正・保護・地域における心理的支援の連携のあり方：

### 性犯罪者に対する公的支援と民間支援

#### 【目的・ねらい】

公認心理師法第42条は、公認心理師に対して他職種との連携を義務付けている。しかし、司法・犯罪・嗜癮領域においては、公的支援における縦割り、公的支援と民間支援の間の情報共有の難しさ、更には地域における受け皿不足など、連携上の課題が少なくない。そこで、本シンポジウムにおいては、性犯罪者に対する心理的支援を例にとって、各機関の支援の実際を報告し、現行の枠組みの中で公認心理師として連携する方策について検討することを目的とする。

---

企画	有野 雄大	内閣府成果連動型事業推進室
企画	寺田 孝	府中刑務所
司会	嶋田 洋徳	早稲田大学
話題提供1	寺田 孝	府中刑務所
話題提供2	有野 雄大	内閣府成果連動型事業推進室
話題提供3	中川 桂子	大石クリニック

---

話題提供1 寺田 孝 府中刑務所

#### 【発表タイトル】

刑事施設の性犯罪再犯防止指導における他機関との連携について

#### 【発表内容】

性犯罪再犯防止指導を受講した者については、処遇の一貫性を保ち、実効性を高めるために、プログラム密度、回数、特記事項等を、刑事施設から保護観察所へ引き継いでいる。また、矯正と保護の現場職員の連絡協議会が毎年開催されており、互いに情報共有に努めている。保護観察所以外の機関とは直接的に連携することはないが、受講者の必要性に応じて地域のサポート機関を活用できるように関わることがある。

---

話題提供2 有野 雄大 内閣府成果連動型事業推進室

#### 【発表タイトル】

保護観察所の性犯罪者処遇における関係機関との連携について

**【発表内容】**

保護観察所においては、性犯罪対象者に対して、認知行動療法の理論に基づく性犯罪者処遇プログラムを中心とする処遇を行っている。しかし、刑事施設で行われた性犯罪再犯防止指導の結果を保護観察処遇にいかすこと、プログラム、更には保護観察を終了した者に対するアフターケアについては課題もある。保護観察所における性犯罪者処遇の実情を概観し、刑事施設で行われた指導、地域の社会資源を活用する方策について考察する。

---

話題提供 3      中川 桂子      大石クリニック

**【発表タイトル】**

性犯罪をした者への民間の心理的支援の多職種連携と多施設連携

**【発表内容】**

性犯罪をした者の民間の心理的支援の1つとして、依存症外来を有する精神科クリニックの取り組みをあげることができる。精神科クリニックにおける心理的支援では、医師、看護師、精神保健福祉士、そして公認心理師がその役割を担い、さらに必要に応じて役所や就労移行支援施設との連携を行なっている。そこで、本発表ではこれらの取り組みにおける多職種連携と多施設連携について紹介する。

## 科学者—実践家モデルは「絵に描いたモチ」ではない—

### 「食える」心理職となるために

#### 【目的・ねらい】

科学者—実践家モデルは、公認心理師の会の中核的な理念である。そこで、本発表は、科学者—実践家モデルを再確認し、今後の方向性を共有することを目的とする。その内容としては、①科学者—実践家モデルとは何か、②そのモデルと公認心理師の関係性、③科学者としてのミニマム・エッセンスとは何か、④実践者としてのミニマム・エッセンスとは何か、⑤その活動の具体例はどのようなものか、というものを予定している。

---

司会	佐々木 淳	大阪大学
講演者	武藤 崇	同志社大学

---

## 行動コンサルテーションによる教育分野への支援

### 【目的・ねらい】

コンサルテーションは、教育分野で活動する公認心理師に求められる主たる業務の1つである。その際に、客観的に観察可能で、共有することが比較的容易な「行動」に着目したコンサルテーションを展開することは、「科学者—実践家モデル」の求める、根拠に基づいた支援において極めて有用な手段である。本シンポジウムでは、行動コンサルテーションの理論と実践について整理を行い、行動コンサルテーションの重視する観点について共有することをねらいとする。

---

企画・司会 1・指定討論	大石 幸二	立教大学
企画・司会 2	小関 俊祐	桜美林大学
話題提供 1	大橋 智	東京未来大学
話題提供 2	榎本 拓哉	明星大学
話題提供 3	新井 雅	跡見学園女子大学

---

指定討論 大石 幸二 立教大学

### 【発表タイトル】

教育分野において行動コンサルテーションを適用する際の留意点について考える

### 【発表内容】

教育分野において行動コンサルテーションを適用する際の留意点のうち、①教職経験年数の豊富なベテラン教師（コンサルティ）への介入を成功させ、全校体制を整備することや、②幼児・児童生徒（クライアント）の行動問題のみならず学習深化や社会的相互作用促進の努力を継続することは成功を修め、知見が重ねられている。残るは、③コンサルタント自身の行動（相互作用スタイルや強化子の提示など）の分析を進め、養成・研修にその知見を活用することである。この点について話題提供者に問いかけてみたい。

---

話題提供 1      大橋 智      東京未来大学

**【発表タイトル】**

コンサルテーションの鳥瞰図：間接援助技法の概念整理

**【発表内容】**

コンサルテーションは、Caplan（1963）によって援助技法として基本概念が形成されたが、その後広く間接援助技法として拡張され本邦ではさまざまなコンサルテーション（山本, 1968・石隈, 1999・加藤・大石, 2004 など）が用いられている。本発表では、行動論、精神分析学、社会組織論などの立場から位置づけられるコンサルテーションのだれを「対象」とするか、なにを「効果」とするかについて全体像を示したい。

---

話題提供 2      榎本 拓哉      明星大学

**【発表タイトル】**

校内での包括的な行動支援計画の導入と維持  
—公立高等学校におけるコンサルテーションの実践から—

**【発表内容】**

発達の問題を持つ児童生徒の増加などにより、義務教育以降の支援活動が急務となっている。それを受け、文部科学省は都道府県の普通科高校に「通級指導教室」を設置するモデル事業を展開している。しかし、継続的な行動支援計画を実行する体制が十分に整っているとは言い難い状況である。そこで、校内の特別支援委員会と公認心理師が中心となって校内での支援体制を整備し包括的な支援を行ったケースを紹介し、今後の高校での間接支援の展開と公認心理師の関わりとして重要な要素を考察する。

---

話題提供 3      新井 雅      跡見学園女子大学

**【発表タイトル】**

「チーム学校に活かす行動コンサルテーション」

**【発表内容】**

複雑化・多様化した問題を抱える近年の学校現場において、スクールカウンセラー等の心理専門職（公認心理師）には、教師や保護者など様々な関係者と積極的に連携・協働しつつ、問題の予防や未然防止をも含めた心理教育的な援助活動に貢献することが強く求められている。

本シンポジウムでは行動コンサルテーションの観点から、チーム学校に基づく心理教育的な援助活動の展開を支える心理専門職の役割と可能性について検討する。

## 心理学とノーマライゼーションの関係におけるパラダイム・シフトは可能

### か：分担から連携，そして共創へ

#### 【目的・ねらい】

従来、「科学は人間性を疎外する」というステレオタイプによって、「(科学的な)心理学」と「ノーマライゼーション(インクルージョン)」との関係はトレード・オフ(trade-off)なもののみなされることが多かった。そこで、本シンポジウムの目的は、児童福祉、障がい者福祉、高齢者福祉の現場で活躍する「科学者-実践家」にご登壇いただき、心理学とノーマライゼーションとの良好な「橋渡し」の実例を明示することとする。

---

企画・司会	武藤 崇	同志社大学
話題提供1	熊 仁美	特定非営利活動法人 ADDS
話題提供2	陶 貴行	LITALICO 研究所
話題提供3	河野 禎之	筑波大学
指定討論	境 泉洋	宮崎大学

---

話題提供1 熊 仁美 特定非営利活動法人 ADDS

#### 【発表タイトル】

科学者-実践者モデルに基づいた発達障害の早期支援エコシステムの全国実装

#### 【発表内容】

発達障害のある児童への大規模な支援研究は、欧米を中心に蓄積されてきた。本発表では、それらの成果を基盤とした早期支援モデルを15拠点へ導入した全国実装プロジェクトの成果報告を行う。具体的に、(1) 我が国の実態に即した親子共学型療育モデルの効果、(2) ICTを活用した科学者-実践者モデルに基づく実装戦略、(3) 社会的インパクト評価(350家庭の親子の変化や実装科学的な条件検討)について述べ、政策への活用や福祉領域における科学技術の有用性についてふれる。

---

話題提供 2      陶 貴行      LITALICO 研究所

**【発表タイトル】**

ノーマライゼーションの実現に向けた障害のある方々への科学的心理学に基づく就労支援

**【発表内容】**

わが国の障害のある方々の雇用は、障害者雇用促進法に基づき、雇用施策や職業リハビリテーションの措置が取られており、その背景にはノーマライゼーションの理念がある。しかし、就労から職場定着の過程には誤解や無理解により不適応に至る事例もある。本発表では、科学的心理学に基づく就労支援の実践により、①いかにして個と環境の相互作用として生じた障害にアプローチできるか、②個人や環境にどのような影響を与えうるか検討する。

---

話題提供 3      河野 禎之      筑波大学

**【発表タイトル】**

認知症とノーマライゼーション／インクルージョン—認知症フレンドリー社会へのパラダイムシフト—

**【発表内容】**

認知症の人々を取り巻く環境は、この 10 年間で劇的に変化しつつある。それは、これまで医療や介護、福祉の領域で語られてきたものが、現在では広く社会全体として考えるべき課題として認識され、「認知症フレンドリー社会」の実現に向けた取組が世界的に加速していることにある。その中で、心理学、特に心理臨床家は、多様な専門職や人々とともに、とりわけ当事者である認知症の人本人とともに協働することで、新たな貢献が求められている。

---

指定討論      境 泉洋      宮崎大学



## 職場復帰支援—治療と仕事の両立に必要な支援とは—

### 【目的・ねらい】

産業領域における心理職の職場復帰支援は、うつ病をはじめとするメンタル疾患を持つ就労者支援を中心に行われてきたが、少子高齢化に伴う労働人口の減少などを背景に、様々な疾患の治療と仕事の両立をしている就労者の支援など、求められる対応範囲が広がっている。本シンポジウムでは、心理職・企業・産業保健/医療の立場から、産業領域で、“今”、公認心理師に求められることについて話題提供いただき理解を深めていきたい。

---

司 会	水島 秀聡	小島プレス工業 (株)
話題提供 1	田上 明日香	SOMPOヘルスサポート (株)
話題提供 2	浅野 健一郎	(株) フジクラ
話題提供 3	立石 清一郎	産業医科大学病院

---

話題提供 1 田上 明日香 SOMPOヘルスサポート (株)

### 【発表タイトル】

職場復帰支援の広がり—公認心理師の立場から—

### 【発表内容】

産業・労働領域を主たる専門領域とする心理職は約4%と少ないが、職場復帰支援として医療機関などで働く人の支援に関わっている心理職は少なくない。本発表では、職場復帰支援の広がりに着目して、産業領域における治療と仕事の両立支援の文脈で個人と組織に対して生じているニーズの広がり、そのニーズに対応するうえでの現状と課題について、産業領域で働く先生方に加えて連携先の他領域の先生方にも話題提供させていただきたい。

---

話題提供 2 浅野 健一郎 (株) フジクラ

### 【発表タイトル】

企業の立場からみた「治療と仕事の両立支援」の意義

### 【発表内容】

今、働き方改革の一環として、治療と仕事の両立支援が取り上げられ、あたかも新しい働き方の如く捉えられがちであるが、現実はいままでの就労環境や実態の中で、普通に行われてきた行為である。では、これまでの両立支援とこれからの両立支援では、何が異なるのであろうか。企業経営の視点からの両立支

援の意義、労務管理の視点からみた両立支援の違いについて概観することにより、今求められる両立支援のあり方を考察する。

---

話題提供 3      立石 清一郎      産業医科大学病院

**【発表タイトル】**

治療と仕事の両立において心理職に期待すること

**【発表内容】**

治療と仕事を両立したい労働者は様々な悩みを抱えている。両立支援のガイドラインでは事業場において就業上の配慮を行うことについて多く記載されているが、心理的なサポートについてはあまり触れていない。治療するにあたって、膨大な情報量と、多くの意思決定の必要性があり、ひとりで解決しきれずに不合理な判断に至る。当事者に寄り添い、情報整理のうえで、正しい意思決定に導くことを心理職には期待したい。

◆主要5分野専門研修会（厚生労働省・文部科学省後援） 5月31日 概要集

◆主要5分野専門研修会（厚生労働省・文部科学省後援） 5月31日 プログラム

時間	番号	部会	タイトル	講師	所属
午前 9:00- 12:00	WS1	教育・ 特別支援	エビデンスにもとづいた発達支 援・教育支援	山本 淳一	慶應義塾大学
	WS2	産業・労働 ・地域保健	産業の人材開発と組織改革におけ る心理学的支援	奈良 元壽	帝京平成大学
午後 12:30- 15:30	WS3	医療	医療で働く公認心理師のエッセン シャルスキルズ-医療現場における 基本的振る舞いと作法	澤田 梢	広島県立障害者 リハビリテーシ ョンセンター
				庵地 雄太	国立循環器病研 究センター
	WS4	福祉・障害	知的障害のある人のメンタルヘル スと心理的支援	下山 真衣	信州大学
				岩佐 和典	就実大学
夕方 16:00- 19:00	WS5	司法・犯罪 ・嗜癖	精神鑑定に求められる公認心理師 の役割	西中 宏吏	千葉大学
				椎名 明大	千葉大学
	WS6	倫理・職責 ・関連法規	臨床現場におけるエビデンスに基 づいた実践の方法論	柳澤 博紀	犬山病院
				瀬口 篤史	西知多こころの クリニック

## エビデンスにもとづいた発達支援・教育支援

山本 淳一 (慶應義塾大学)

### 【ワークショップ概要】

2010年以降、発達支援プログラムの効果に関するエビデンスが着々と蓄積されてきた。例えば、支援の場として日常環境を設定し、行動科学と発達科学の最先端の知見を融合した「日常環境発達行動支援法 (Naturalistic Developmental Behavioral Intervention: NDBI)」の効果などが実証されている。また、発達障害支援に関しても、「限局性学習症」「自閉スペクトラム症」「注意欠如・多動症」への発達支援・教育支援プログラムの効果が示されている。本ワークショップでは、「エビデンスに基づいた実践 (evidence-based practice)」を実現する上で必要な、先端的な発達支援方法、各発達障害に対応した支援プログラムを概観する。また、子どもたちひとりひとりに効果的な発達支援を提供するためには、「環境と個人との相互作用」に焦点を当て、支援方法を適合化する必要がある。この点から、支援プログラムを、発達支援・教育支援の「文脈 (context)」に適合させ、実践現場で活用するための技法とアセスメント方法を紹介する。スタッフ支援、ペアレントトレーニング、遠隔地支援 (telehealth)、認知行動療法との融合、発達移行期に焦点をあてた包括的支援、行動問題の機能分析、ポジティブ行動支援などの実践と事例を具体的に提示しながら、ワークショップを進める。

## 産業の人材開発と組織改革における心理学的支援

奈良 元壽 (帝京平成大学)

### 【ワークショップ概要】

現在公認心理師の産業領域業務の多くは、①メンタル不調者の心理学的支援、予防、②ストレスに関連するカウンセリング、研修、組織支援、③キャリアや問題解決型のカウンセリングであろう。

一方海外では、健常者の能力開発を目指す人材開発の分野で、臨床的を含むサイコロジストがコーチングなどで活躍するケースが増加している。

本ワークショップではまず、企業が近年重視する「個人を対象とした人材開発」の概要を説明し、公認心理師として携わる可能性のある業務内容を解説する。その中でも重要と思われるコーチングについてケース検討も含め理解を進める。臨床で馴染みのあるケースフォーミュレーション、認知行動療法的支援なども応用する。

次に、公認心理師が今後活躍を期待される、「組織全体を対象とした組織改革」の分野を概観する。組織改革には経営戦略を始め複雑な要素が関連しているが、心理職が関わる事のできる業務を整理し、ワークも体験しながら理解を進める。

## 医療で働く公認心理師のエッセンシャルスキルズ

### -医療現場における基本的振る舞いと作法

澤田 梢 (広島県立障害者リハビリテーションセンター)

庵地 雄太 (国立循環器病研究センター)

#### 【ワークショップ概要】

身体疾患にかかわる医療領域で働く公認心理師は、身体疾患についての基礎的な知識を習得することが必要であるだけでなく、医療の中で用いられる基本的な用語、医療制度や診療報酬などに基づいた病院運営、医療における接遇マナーや医療独特の文化など、医療現場での「共通言語」を身につけていく必要がある。また、公認心理師として多職種と円滑な協働を実現するためには、チームの中でどのように立ち振る舞うかという視点も重要である。しかしながら、これらの医療の基礎知識や基本的な振る舞いに関して、十分に学べる環境は整っているわけではない。

そこで、本研修では、実際に身体疾患にかかわる医療現場で働く2名の講師からの話題提供を通し、医療の基礎知識を確認し、医療現場で働く際のポイントや留意点を整理したい。

## 知的障害のある人のメンタルヘルスと心理的支援

下山 真衣 (信州大学)

岩佐 和典 (就実大学)

### 【ワークショップ概要】

知的障害のある人のメンタルヘルス不調の有病率は約 20%で、一般の人に比べて高い割合で起きています。また、知的障害のある子どものメンタルヘルス不調の発症は、知的障害のない子どもに比べて 4 倍も高い状況にあります。従来では知的障害のある人へのカウンセリングや心理療法は適切でないと考えられることもありましたが、近年ではイギリス、オーストラリア、アメリカを中心に知的障害のある人への心理的支援（カウンセリング、認知行動療法、力動的心理療法など）が広まってきています。しかし、国内で知的障害のある人のメンタルヘルス不調や心理的支援に関する研修を心理師が受ける機会はほとんどない状態です。そこで本ワークショップでは、知的障害のある人のメンタルヘルスの理解を深め、事例をもとに心理的支援を検討する機会を提供します。ワークショップでは、知的障害のある人のメンタルヘルス、アセスメント、心理的支援の実際について扱います。

## 精神鑑定に求められる公認心理師の役割

西中 宏吏 (千葉大学)

椎名 明大 (千葉大学)

### 【ワークショップ概要】

法律家や裁判員が法律判断をする際に、必要な知識や経験が足りないことがある。これを補う目的で行われるのが鑑定であり、精神医学的な専門分野の知識と経験が必要で精神科医にその補充を求める場合を特に精神鑑定という。

精神鑑定では鑑定人である精神科医により依頼を受け、心理学の専門家が助手としてかかわることが少なくない。公認心理師制度の開始により、精神鑑定における心理学の専門家に求められる役割と責任はますます大きくなることが予想される。

しかし、心理学の専門課程において精神鑑定に関する教育がなされることは想定されていないばかりか、心理学の専門家向けの講習・研修の機会も希少である。

本ワークショップでは、精神科医と公認心理師の2名の講師による講義や演習を通して、精神鑑定の目的や方法等を解説するとともに、心理検査バッテリーを組む際のポイントについて学ぶ。また、心理検査以外に鑑定人が心理学の専門家に求める事項について整理を行う。



## 臨床現場におけるエビデンスに基づいた実践の方法論

柳澤 博紀 (犬山病院)

瀬口 篤史 (西知多こころのクリニック)

### 【ワークショップ概要】

心理学におけるエビデンスに基づく実践（EBPP）とは、大規模研究で得られたエビデンスの知見を日常臨床にそのまま適用することではありません。患者の特徴、文化および希望という枠組みのなかで得られる最新最善の研究エビデンスと臨床上の判断を統合させたもの（米国心理学会，2006）です。そのため臨床実践家には、目の前の対象者の状態や特性に合わせた柔軟な対応が求められます。私達は対象者に合わせた柔軟性の高い実践を行うために、できる限り客観的な行動を継続測定する重要性を提案しています（柳澤ら，2016 など）。行動を継続的に測定することで、本当に「心理介入が必要なのか」判断ができ、実施した介入の効果の有無を評価することができ、また介入の終了地点について妥当な判断をすることができるようになります。本ワークショップでは、実践事例の紹介、行動測定の基礎、心理面接から行動測定につなげる技術などを、講義及び演習を通じて理解を深めます。